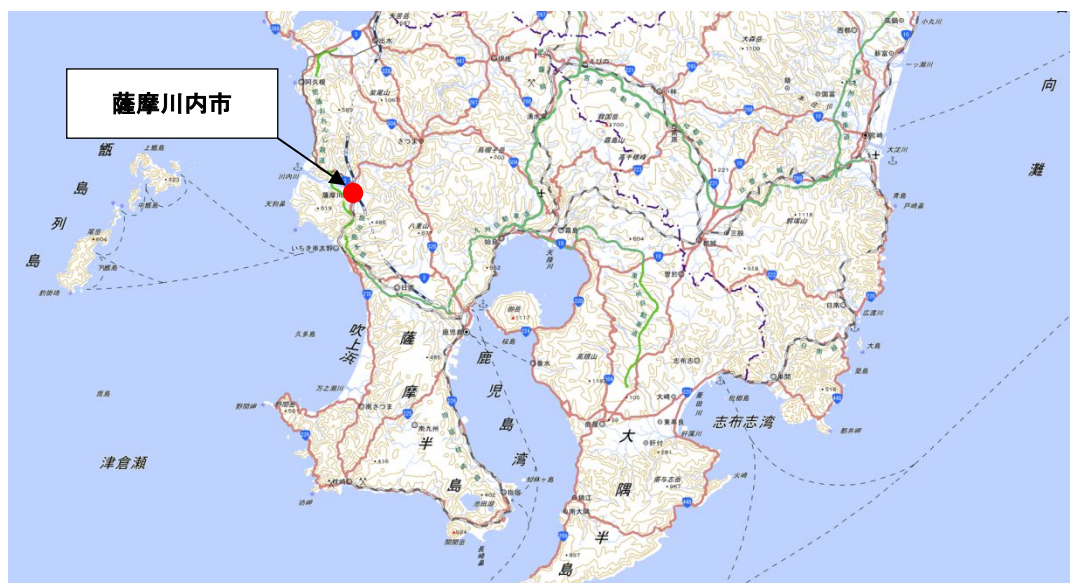


鹿児島県（薩摩川内市）の現地調査概要

- ・鹿児島県薩摩川内市では、台風や梅雨の豪雨による川内川の水害が幾度も発生している。
- ・文献調査に基づき、過去の記録が残る地域において詳細情報を収集するため、鹿児島県薩摩川内市で現地調査を実施した。

調査日：平成 28 年 5 月 13 日（金）

調査地点：鹿児島県薩摩川内市

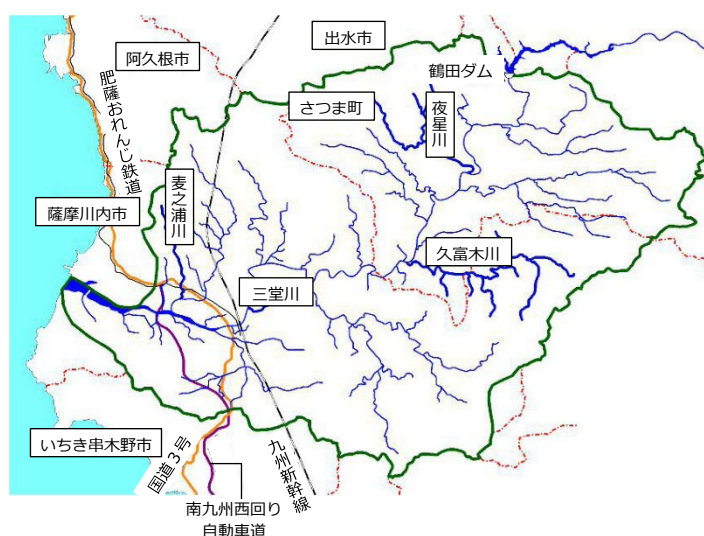


▲調査箇所図

出典：国土地理院

【川内川の水害】

- ・川内川は、その源を熊本県球磨郡あさぎり町の白髪岳（標高 1,417m）に発し、羽月川、隈之城川等の支川を合わせ、川内平野を貫流し薩摩灘へ注ぐ、幹川流路延長 137 km、流域面積 1,600k m²の一級河川である。（うち、川内川下流圏域面積は 868k m²）
- ・川内川の史実に基づく一番古い洪水は、「続日本書記」及び「大日本史」に記載されている天平 18 年 10 月 5 日（西暦 746 年）の洪水であり、古くから人や家畜の死傷、家屋の埋



▲川内川下流圏域概要図

出典：鹿児島県HP

没・流失といった惨事が幾度ともなく繰り返されてきた。

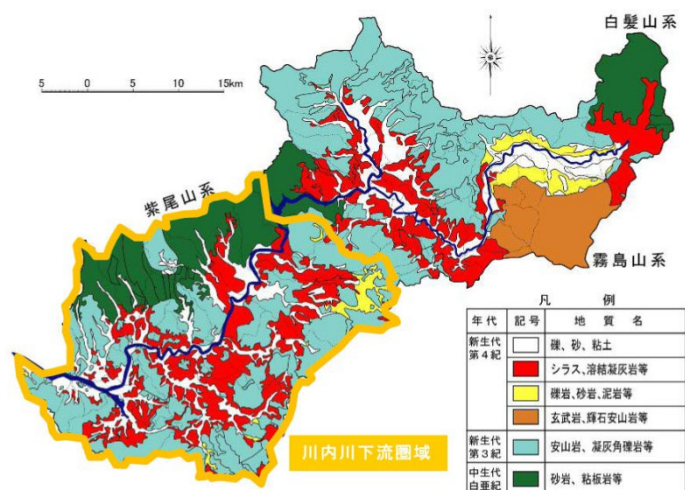
- ・洪水記録が整理されはじめた 1500 年代から現在に至るまで約 200 回を超える記録があり、平均で 2 年に 1 回程度、洪水が発生している。特に昭和 40 年代は大規模な水害が頻発した。

▼川内川流域の主な水害

出典：鹿児島県HP

洪水発生年	原因	流域平均 12時間雨量	被害状況
昭和 2 年 8 月 11 日	豪雨 (台風性)	—	浸水家屋(約3,000戸) (川内町調査のみ)
昭和18年 9 月 19 日	台風	—	家屋全半壊・流失(144戸) 浸水家屋(3,333戸)
昭和29年 8 月 18 日	台風	133mm	死者(13名) 家屋全半壊・流失(8,578戸) 床上浸水(2,102戸)、床下浸水(10,236戸)
昭和32年 7 月 28 日	梅雨	230mm	死者・行方不明者(6名) 家屋全半壊・流失(30戸) 床上浸水(1,433戸)、床下浸水(7,689戸)
昭和44年 6 月 30 日	梅雨	152mm	死者・行方不明者(52名) 家屋全半壊・流失(283戸) 床上浸水(5,874戸)、床下浸水(7,448戸)
昭和46年 7 月 21 日	梅雨	136mm	死者・行方不明者(12名) 家屋全半壊・流失(347戸) 床上浸水(戸3,583)、床下浸水(8,599戸)
昭和46年 8 月 3 日	台風	206mm	死者・行方不明者(48名) 家屋全半壊・流失(662戸) 床上浸水(3,091戸)、床下浸水(9,995戸)
昭和47年 6 月 18 日	梅雨	239mm	死者・行方不明者(7名) 家屋全半壊・流失(357戸) 床上浸水(1,742戸)、床下浸水(3,460戸)
昭和47年 7 月 6 日	梅雨	136mm	死者・行方不明者(8名) 家屋全半壊・流失(472戸) 床上浸水(695戸)、床下浸水(1,399戸)
平成元年 7 月 27 日	台風	223mm	家屋全半壊・流失(45戸) 床上浸水(171戸)、床下浸水(702戸)
平成 5 年 8 月 1 日	豪雨	190mm	家屋全半壊(9戸) 床上浸水(170戸)、床下浸水(423戸)
平成 5 年 8 月 6 日	豪雨	188mm	家屋全半壊(9戸) 床上浸水(102戸)、床下浸水(410戸)
平成 9 年 9 月 16 日	台風	190mm	家屋全壊・一部破損(3戸) 床上浸水(264戸)、床下浸水(223戸)
平成17年 9 月 6 日	台風	185mm	家屋一部損壊(12戸) 床上浸水(37戸)、床下浸水(144戸)
平成18年 7 月 22 日	梅雨	295mm	死者・行方不明者(2名) 家屋全半壊・流失(32戸) 床上浸水(1,816戸)、床下浸水(499戸)

- ・川内川流域の地質をみると、約 33 万年前の加久藤カルデラ形成時噴出物の上に、約 2 万年前の始良カルデラ形成時の入戸火砕流堆積物(シラス)が覆っている。
- ・シラスは、隙間が大きく透水性も高いため流水に弱く、豪雨時の被害が発生しやすいという特徴がある。

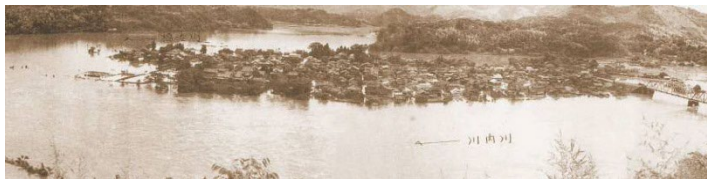


▲川内川流域地質図

出典：九州土木地質図（国土交通省 九州地方整備局）

【台風による昭和 29 年 8 月の洪水】

- ・昭和 29 年 8 月 13 日に発生した台風第 5 号の接近に伴い、川内川流域では 17 日夜半より降雨の激しさと共に上昇し始めた水位が上昇を続けた。(台風の発生は 8 月 16 日～18 日とされる)



▲東郷地区浸水状況（薩摩川内市）

出典：鹿児島県HP

- ・この台風により崖崩れが 426 箇所が発生し、鹿児島県内の死者は 13 名、負傷者 55 名の人的被害を出し、家屋全半壊・流失 8,578 戸、床上浸水 2,102 戸、床下浸水 10,236 戸に達した。宮崎県では死者 39 名、行方不明者 4 名の人的被害を出し、地すべり 1 箇所、崩壊 5 箇所、土石流が 1 箇所発生したとされている。

【梅雨による昭和 32 年 7 月の洪水】

- ・昭和 32 年 7 月 25 日～29 日にかけて梅雨前線が停滞し、九州全域が豪雨に見舞われた。
- ・この梅雨前線により、川内川流域で洪水が発生。
- ・鹿児島県内では死者・行方不明者 6 名の人的被害を出し、家屋全半壊・流失 30 戸、床上浸水 1,433 戸、床下浸水 7,689 戸に達した。



▲東郷地区浸水状況（薩摩川内市）

出典：鹿児島県HP

【梅雨による昭和 44 年 6 月洪水の「大水害救援之塔」：薩摩川内市神田町】

- ・昭和 44 年 6 月 28 日の夕方より 7 月 7 日にかけて梅雨前線が九州に停滞し、各地に記録的な大雨を降らせた。
- ・川内川流域では、特に下流地区の薩摩川内市で大きな被害を受けた。支川の春田川、平佐川等が氾濫し、薩摩川内市の中心部はほぼ全域にわたって浸水した。
- ・この梅雨前線により、鹿児島県内では死者・行方不明者 52 名の人的被害を出し、家屋全半壊・流失 283 戸、床上浸水 5,874 戸、床下浸水 7,448 戸に達した。



▲市街地浸水状況（薩摩川内市）

出典：川内川の概要（国土交通省 九州地方整備局）

- ・昭和 44 年 6 月洪水時に全国から救護を受けたことに対する感謝を記念して建てられた「大水害救援之塔」が、薩摩川内市役所前の向田公園内にある。
- ・塔には浸水最高水位が約 2 m の高さに記されており、当時の市街地の浸水状況を伺うことができる。



▲大水害救援之塔の位置（薩摩川内市神田町）



▲薩摩川内市役所前の向田公園内にある「大水害救援之塔」

■大水害救援之塔の碑文

「大水害の塔建立記念碑」

この施設は昭和 44 年 6 月から 7 月にかけて本市を襲った集中豪雨による未曾有の大洪水に際し全国各地から暖かい救援をうけたことに対し感謝の意を表わすため川内ライオンズクラブの寄付によって建立したものである

昭和 46 年 5 月 22 日 川内市